

[八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策]

特産園芸作物の病虫害防除対策

～八丈島の特産作物に発生した蛾類害虫による新たな被害～

竹内 純・竹内浩二*・藤波春美・矢沢宏太

(島しょセ八丈・*島しょセ大島)

【要 約】ハチジョウオクラにおいてワタリングによる食害を確認した。フェニックス・ロベレニーではチャハマキおよびカクモンヒトリによる被害が発生した。カクモンヒトリに対するペルメトリン乳剤またはエトフェンプロックス乳剤の散布は防除効果が高い。

【目 的】

八丈島の特産園芸作物に発生した知見の少ない蛾類害虫の被害を記録する。また八丈島の主幹作物であるフェニックス・ロベレニーの害虫として未確認であったカクモンヒトリに対する樹木類作物群のケムシ類で登録のある2薬剤による防除試験を実施する。

【方 法】

1. 被害の記録：発生状況を観察し、発生害虫の同定を行った。
2. カクモンヒトリに対する薬剤防除試験：薬剤はペルメトリン乳剤の4000倍およびエトフェンプロックス乳剤2000倍を供試した。薬剤処理は1回、小葉数を50枚にしたフェニックス・ロベレニーの葉に幼虫（体長15～20mm）を20頭放飼し、1mmメッシュのネットで覆ったのち各薬剤を散布した。1区1/株、3連制で実施した。調査は薬効および薬害の調査は散布直前（6月25日）、散布1日後（6月26日）、散布3日後（6月28日）の計3回行った。全区の生存虫数を計数し、補正密度指数を算出した。
補正密度指数＝処理区処理後密度×無処理区処理前密度/処理区処理前密度×無処理区処理後密度×100。食害度＝ $[\Sigma(\text{程度別小葉数} \times \text{指数}) / 4 \times \text{調査小葉数}] \times 100$ ；指数 0：無，1：僅かに食害を認める，2：食害面積<25%，3：同50%，4：同50%<。薬害の有無は肉眼観察で確認した。

【成果の概要】

1. ワタリング *Earias cupreoviridis* (Walker, 1862)：2012年7月にオクラ（ハチジョウオクラ）の果実および茎を穿孔し、食入する被害を確認した（図1）。本種はワタ等のアオイ科植物の害虫であるが八丈島では未記録であった。生態等の詳細は不明である。
2. チャハマキ *Homona magnanima* (Diakonoff, 1948)：2012年7月にフェニックス・ロベレニー栽培施設（ネットハウス）で多発した。同株または隣接株の小葉を綴りながら食害した（図2）。発生施設周辺の広葉樹の雑木林が発生源と考えられる。
3. カクモンヒトリ *Lemyra inaequalis inaequalis* (Butler, 1879)：2012年6月にフェニックス・ロベレニー他サクラ、クワなどの広葉樹で多発した（図3）。
4. カクモンヒトリに対する薬剤防除試験：ペルメトリン乳剤，エトフェンプロックス乳剤とも補正密度指数は0で高い防除効果が認められた（表1）。
5. まとめ：八丈島において3種蛾類の被害を確認した。カクモンヒトリは樹木類作物群登録（ケムシ類）のある2種合成ピレスロイド剤で防除可能であった。
6. 留意点：上記蛾類の発生を念頭に置き、早めの防除により被害を軽減する必要がある。



図1 ワタリンガ
左：オクラ果実の被害，中央左：同茎の被害と幼虫，中央右：薄繭内の蛹，右：成虫



図2 チャハマキ
左：フェニックス・ロベレニーの被害，中央：幼虫，右：成虫



図3 カクモンヒトリ
左：フェニックス・ロベレニーの被害，中央：クワ（産卵樹か？）上の幼虫，右：成虫

表1 カクモンヒトリに対する2種殺虫剤の防除効果および薬害（フェニックス・ロベレニー）

供試薬剤	希釈		散布3日後の食害		寄生虫数(補正密度指数)			薬害 ^a
	倍数 (倍)	区制	食害小葉率 (%)	食害度	処理前	1日後	3日後	
アディオソ乳剤 ペルメリン 20.0% Lot.No.:AABI79	4000	I	0	0	20(100)	0(0)	0(0)	—
		II	4	2	20(100)	0(0)	0(0)	—
		III	0	0	20(100)	0(0)	0(0)	—
		Av.	1.3	0.7	20(100)	0(0)	0(0)	
トレボン乳剤 エトフェンプロックス 20.0% Lot.No.:OXY50001	2000	I	2	1	20(100)	0(0)	0(0)	—
		II	0	0	20(100)	0(0)	0(0)	—
		III	0	0	20(100)	0(0)	0(0)	—
		Av.	0.7	0.3	20(100)	0(0)	0(0)	
無 処 理		I	100	33	20(100)	18(100)	18(100)	
		II	100	47	20(100)	19(100)	15(100)	
		III	100	48	20(100)	19(100)	18(100)	
		Av.	100	42.7	20(100)	18.7(100)	17(100)	

a)-:薬害なし

*:無処理区のカクモンヒトリ幼虫の死亡要因の大半は寄生蜂による。